

新社屋建設地に 県内初のセンターを先行開発

(株)リンクモア [青森県青森市]

青森県青森市を拠点に年間約580件を施行する(株)リンクモア(社長船橋素幸氏)は、2023年6月15日、エンバーミング施設「リンクモア エンバーミングセンター」(以下、エンバーミング棟)をオープンした。同社が展開する遺体安置棟「いのりのいおり」(以下、安置棟)との複合開発でもある。

安置棟と一体開発した 複合施設

複合施設は、安置棟が一足早く5月20日に開業し本格稼働した。エンバーミング棟が遅れたのは、「エンバーミング棟に関わる備品や薬品などの遅延が、コロナ禍が落ち着いた後も続いたためです」と船橋社長。本来であれば、同時開業が理想だったものの、資材等の遅延は事業者であってもいかんともしがたいものである。

複合施設が位置するのは、JR奥羽本線・青い森鉄道青森駅から車で約10分、青森自動車道青森中央ICから同約15分、国道4号と県道103号が交わる国道NTT交差点から約200mの角地。現在、この複合施設の横に、新社屋を建設中(竣工は24年6月を予定)ということもあり、この一角をしてリンクモアが掲げる“街のオアシス”が形成される運びのようだ。

開発地全体の敷地面積1,107.18㎡を誇る一角に誕生した複合施設の規模は、エンバーミング棟・安置棟合わせて敷地面積221.93㎡。ともに木造平屋建てで延床面積156.73㎡(エンバーミング棟70.61㎡、安置棟は86.12㎡)を誇る。2棟は木造の屋根が印象的なピロティによって一体感ある建物となっており、夜間のライトアップ時には幻想的な灯りが印象的な佇まいだ。

そのほか、両棟の意匠にもこだわりが見受けられるなど、周辺環境への気遣いも感じられるデザインとなっている。

「在留外国人」などへの 処置対応も視野に事業化

エンバーミング棟開設の経緯について、船橋社長は、「コロナ禍中、故人様が入院中に面会できないまま亡くなってしまうケースが散見されたように、故人との時間をゆっくりもちたいとするニーズが高まっています。葬儀の小規模化・簡素化が進むなか、身内数人だけで送りたいとする人もふえました。また、東北地方でエンバーミング施設がないのは、青森県と秋田県の2県のみという実情もありました。これまでも数件、エンバーミングを必要とする故人様がおられましたが、その際には仙台まで移送し施術を行なっていたため、50万円近い費用が必要でした。加えて、エンバーミングは、遺族らの悲嘆を和らげるものではないかと、悲嘆に暮れる遺族らのグリーフケアの一環として事業化を検討するようになりました」と語る。

同時にもう1つ、船橋社長は県内におけるエンバーミングセンターの必要性を感じていた。

「青森市には、新青森駅、青森空港、そして青森港といった交通の要衝があります。そのため、旅行者が県内で亡くなった場合、適切な処置を行なうことが地元葬儀社には求められますが、エンバーミングはその対応策として有効だと考えます。こうした思いで、ふと、県内在留外国人のデータを見たところ、結構な方が住んでおられることがわかりました」

参考までに、青森県内を訪れる海外からの観光客数は図表1に示すとおり。18年の18万3,988人から19年には23万2,257人と、5万人近く増加。取材に訪れた際にも、多くの海外旅行客が青森駅前のバスターミナルに長蛇の列をなしていた。県内在留外国人数も、この5年ほどは5,700人〜6,300人前後で推移(図表2)。国別の在留者数

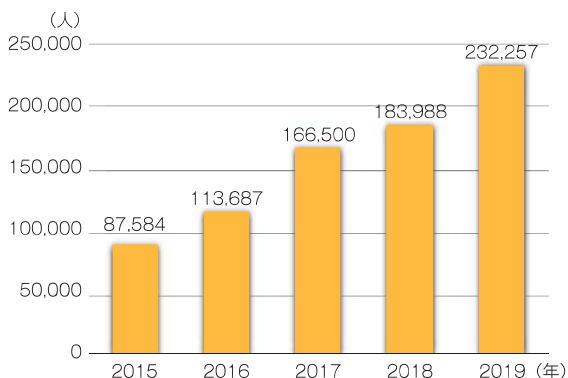


「リンクモア エンバーミングセンター」(左) と、遺体安置棟「いのりのいおり」(右)

施設概要

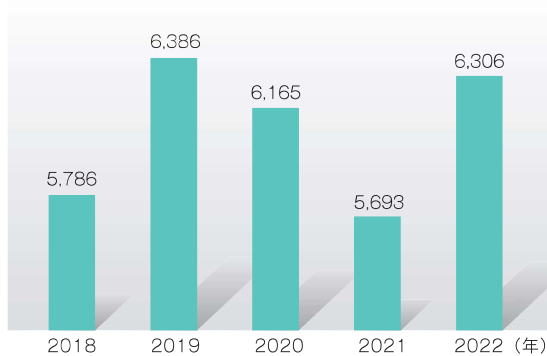
- | | |
|--|---|
| ●施設名称
「いのりのいおり」(遺体安置棟)
「リンクモア エンバーミングセンター」
(エンバーミング棟) | ●建物構造
木造平屋建て |
| ●総敷地面積
1,107.18㎡(第2期工事の新社屋スペースも含む) | ●事業主体
(株)リンクモア |
| ●建築面積
遺体安置棟86.12㎡/エンバーミング棟70.61㎡ | ●エンバーミング処置
(株)センチスト
原則1人対応(受注状況に応じて同社から必要人数を派遣) |

図表1 青森県内を訪れる訪日観光客数の推移



資料：日本政府観光局（JNTO）をもとに作成

図表2 青森県内在留外国人数の推移



資料：公益社団法人青森県観光国際交流機構資料をもとに作成

を見ると、22年のデータでは、ベトナム（2,097人）を筆頭に、中国（919人）、フィリピン（752人）、韓国（694人）が続く。

つまり、船橋社長は、エンバーミングという遺体保全技術を、「遺族グリーフケア」「観光客急死への対応」「在留外国人」の3つの目的で取り組むべきものであると考えたわけだ。

こうした背景をもとに、5、6年ほど前からエンバーミングへの取り組みを本格的に模索するなか、その後押しとなるきっかけがあった。経済産業省・中小企業庁の「事業再構築補助金」である。

この存在を知り得た船橋社長は、本格的にエンバーミングセンターの開設を目指し、新社屋の建設地として確保した場所に、安置棟と一体となった施設開発を具現化するに至ったという。

パートナー企業とともに 開業後5か月で累計61件受注

エンバーミング棟のつくりは、いたってシンプル。館内は、遺体安置用保冷库2基（4体収容可能）とエンバーミング処置室（処置台1台）のほか、エンバーマー用の事務所などから構成される。

エンバーミング処置は、仙台市泉区に本社を置く(株)センチスト（社長青木隆一氏）が担ってい

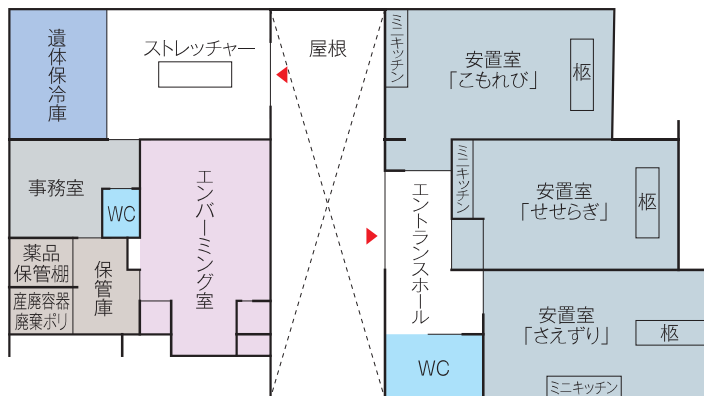
る。この点について、船橋社長は、「エンバーミングセンター開設前から、センチストさんとはおつきあいがあったこともあり、実際にご依頼させていただいた関係もありましたので、施術については、お任せしようと考えておりました」と全幅の信頼をおく。

こうして、開業に備えて同社では、エンバーミング棟と安置棟からなる複合施設の開業を、地元紙・誌などで告知。青森県内初のエンバーミングセンターを広く一般消費者にも知らしめることにした。

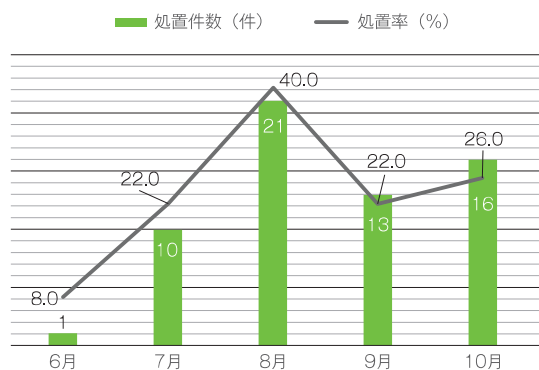
これらの記事を読んだ一部関係者からは、「国内有数の豪雪地帯である青森市に、果たしてエンバーミング施設が必要か」と揶揄する意見もあったそうだが、船橋社長によれば、「雪国だからといって、遺体が傷まないという思い込みからのご指摘かもしれませんが、“雪国だからこそ”エンバーミングのよさがわかるのです。ご存じのとおり、雪国の住宅は気密性が高い。つまり、冬場の暖房効率がすこぶるよく、自宅安置の場合、ご遺体の腐敗は夏場同様に進行する環境下にあります。確かに、昨今は自宅安置から会館への直接安置をご希望される方も多くなっていますが、自宅で数日間安置することになれば、ご遺体の保全には細

「リンクモア エンバーミングセンター」

遺体安置棟「いのりのいおり」



図表3 月別エンバーミング処置件数と処置率（23年6月～10月）



- 1・2 エンバーミングセンター内の処置室
- 3 遺体安置用保冷库2基（4体収容可能）を完備する
- 4 隣接する「いのりのいおり」の安置室「こもれび」
- 5・6 24年6月竣工予定の新社屋（イメージパース）

心の注意が必要になるのです」と指摘する。裏を返せば、雪国においては、季節を問わず、遺体保全に気を遣う必要があるということだろう。

では、実際の稼働状況についてはどうだろうか。それを表わしたのが図表3である。グランドオープンした6月は1件だったが、その後、夏場は2ケタのエンバーミング処置を受注。多いときには1日3件の処置を担当する日もあった。その背景には、連日の猛暑日の影響もあるが、それ以上に大きな理由は、青森市内にある火葬場の老朽化問題である。

青森市内には、1972年に開業した「青森市斎場」（炉数7基）と、92年に開業した「青森市浪岡斎園」（炉数2基）があるが、市街地にある青森市斎場は、コロナ禍対処に加えインフルエンザによる死亡者

の増加に対応できず、この夏は「火葬待ち」が常態化。なかには7日間ほど待たされる遺族もあったという（菩提寺の都合も含む）。

こうしたことから、同社ではエンバーミングを遺族に提案。「エンバーミングの実際の効果をどのようにして遺族らに伝えるか」という課題があったものの、センチストのエンバーマーである諸隈智課長が、リンクモアスタッフに定期的な研修を実施。諸隈課長自らも遺族にエンバーミングのよさを直接伝えるなどした結果、この10月末までに累計61件を受注するに至ったという。

この受注件数に関して、センチスト取締役部長である石川隆次氏は、「当社は仙台を拠点にエンバーミングを行なっておりますが、本格的に稼働しはじめた3年ほど前には月間数件からのス



リンクモア エンバーミングセンターの運営に携わる主要メンバー(左:センチスト課長/諸隈智氏、中央:リンクモア代表取締役社長/船橋素幸氏、右:センチスト取締役部長/石川隆次氏)

スタートでした。いま現在は少なくとも月間50件以上の施術を行っていますが、スタート時からみると想像以上に好調な出足といえるでしょう」と語る。

県内での普及に向けて 広く同業他社にも開放

石川部長が想像以上に伸びたと語るリンクモアだが、気になるのはエンバーミングを依頼した遺族の反応である。

この点については、「これほどまでにきれいになるとは驚きです」「本人以上によかった」「火葬まできれいな状態のまま、お見送りすることができました」といった声や、船橋社長がエンバーミングセンターを開設する動機の1つとなった観光時に急死した遺族からも、「エンバーミングを行なったおかげで、火葬をしないで名古屋まで連れて帰ることができ、孫を含め多くの人でお見送りすることができました」といった声が挙がるなど、高い評価を得ているという。

こうした声を背景に、「高齢多死社会を迎えたいま、今後はおひとりさまもこれまで以上にふえ

てくるでしょう。そうすると、県外に在住する喪主らが青森に戻るまでタイムラグが生じてしまいます。加えて、お亡くなりになってから発見されるまでに長時間かかることも想定される。県内は、これまで骨葬が主流でしたが、最後の対面は成し遂げてもらいたい。もちろん、その状態に依りますが、少しでもきれいな状態でお見送りするためのお手伝いができるよう、エンバーミングサービスを広く知らしめていければと考えています」と船橋社長。

そのため、エンバーミング棟の利用については、広く県内の葬儀社にも開放するとし、他社からの依頼であっても一般価格19万6,364円(リンクモア会員価格は16万円、いずれも税別)で請け負うと表明。いまのところ他社からの依頼はないそうだが、今後も、「ご遺族が安心して故人との最期のお別れができるよう、葬儀人としての使命をもって、他社施行の故人様であっても広く分け隔てなく対応していきたい」と決意を示す。

今後は、安置棟「いのりのいおり」(詳細は23年8月号を参照)と効率的に運用し青森県内でのエンバーミングをさらに浸透させていく構えだ。

■(株)リンクモアの概要

所在地 青森県青森市中央1-27-10
設立 1967年9月2日
※青森冠婚葬祭互助会
として設立
代表者 船橋素幸
施行件数 約580件(2022年度)



成仏不動産 実績 葬儀 × 不動産

孤独死・自殺・事故等により、室内で人が亡くなってしまった不動産を正しく査定し高く買取ります。

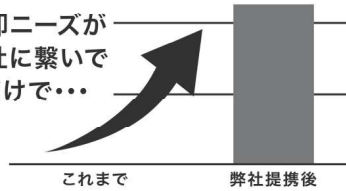
資格保有者多数
(宅地建物取引士・遺品整理士・相続診断士 etc...)

✓ 事故物件を高く買取ります



〈東京都 A 葬儀社様の場合〉 \\ 約600万/

不動産売却ニーズがあれば弊社に繋いで
いただくだけで...



0120-917-974

成仏不動産 運営: 株式会社マークス不動産

エリア
全国対応

種別
土地・戸建て・マンション

査定相談
無料

